



〈こえ〉をきく～特別支援教育のニーズのある子どものための 進路情報交流学習会の意味すること～

—あかいわ子どもの進路保障実行委員会事務局に携わって—

赤磐市立吉井中学校 教頭 久次 博文

1 はじめに

(1) 取組を振り返って

拙論において、研究主題の会（以下、学習会）の経緯と、実践してきたことを改善して取り組んできたことを検証することで、持続的な取組内容の充実を図り、特別支援教育のニーズのある子どもたちの進路を保障するための支援に今後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

(2) 「親の会」で、知ること・考えること

2015年（平成27年）に、当時勤務していた中学校区の保護者の方々の願いと市・県の積極的な取組の中で、勤務校に新しく自閉症・情緒障害特別支援学級が開級された。担任として私が、大切にせねばならないと思っていたことは、〈子どもと保護者の〈こえ〉をしっかりと聴くこと〉だった。さらに、開級にあたっては、学習環境の整備（教室の構造化等）と、必要かつ具体的な合理的配慮の提供についても、保護者と市と学校がしっかり話し合いながら、綿密に準備を進めた。その流れの中で、入級する子どもの保護者の方々が、自主的定期的に開催する「親の会」に自分自身も参加した。

親の会では、お茶を飲みながら、一人ひとりの子どもの日々の成長を喜び合ったり、「子育て」や「社会的自立」についての悩みや心配・不安なことを出し合ったりしたが、いつも大きなテーマになっていたのは、中学校卒業後の「進路」であった。中学校では、子どもらは、一年時から計画的に進路・キャリア学習を進め、保護者もオープンスクールや高校説明会で進路情報を手にしていくが、特別支援学級在籍の子どもたちの保護者が「自分の子どもの発達特性」等に合った進路情報を収集し、進路支援の見通しをもつ機会はほとんどなかった。そして私自身も特別支援教育のニーズのある子どもたちのための進路についての情報の少なさに、課題を抱えていた。

そこで、親の会で話し合い、まずは勤務している中学校で高校を招き、「進路情報を自分たちで手に入れて、勉強をしていこう」と取組を始めることとした。

2 これまでの経緯〈原点から赤磐市との共催まで〉

(1) 学習会のスタート 〈こえ〉を大切に

2015年7月21日、高等学校二校に来ていただき「特別支援教育のニーズのある生徒の進学について～進路学習会～」を開催した。学習会では各学校の紹介と特別支援教育・支援の実際について話を伺い、質疑応答を行った。わずか1時間ほどであったが、参加した保護者一人ひとりが「自分の子の発達特性・発達障がい」に重ね、「知りたい情報」を直接聞き、子どもの「進路実現」に向けて大きな展望と見通しをもつことができた。これが現在に続く「学習会（春15（いちご）の会）」の原点となった。

2016年には、親の会での「他地域でも多くの保護者が、進路に不安を持ち、情報が不足している」という〈こえ〉を受け、近隣の学校・地域へも学習会の案内チラシを配付して実施することとした。

2017年の学習会への参加者は、45名（中学校の保護者16名、小学校の保護者8名、中・小学校教職員11名、行政・支援者10名）だった。この時のアンケートの一部を紹介する。

- オープンスクール等の案内をもらっても、なかなか自分のこととして捉えられず、親の方まで情報が届いていません。これからのことが大変心配で、親ががんばって動かなければと考えているところ。こういった情報を得る機会がなかったので、いろんな学校やハローワーク、地域生活支援センター等のお話が聞けて、進路を考える上で参考になりました。
- まだ、就学前で知らないことばかりなので、しばらく先の事にはなりますが、最終目標（自立）に向かうまでの道のりとして、「本人がどうなりたいたのか」一緒に考えていく材料のひとつになりました。
- このような会を設けて下さってありがたいです。私の子どもは学校に休まず行っています。今後も高校に入ってから、友だちができて、楽しく学校に行けたらいいと思っています。その先の就職でちゃんと働けるようになってほしいです。希望の学校の先生と個別（ブース）にお話も出来て、とても参考になりました。
- 家庭訪問や個人懇談時に多くの親から「将来のこと（進学・就労）が不安」という声を聴き、それに対して的確な助言ができなかった。このような学習会は小学校教員にとって情報を得るよい機会であった。今、目の前の子どもが将来どのような道を進んでいくのかを小学校時から見据えていくのは大切だと思うのですが、具体的な情報を得る場がありませんでした。とても参考…というより、自分自身の学習になりました。

親の会は、開催毎に必ずアンケートを実施し、その中の貴重な意見〈こえ〉を、次の学習会に活かし改善を図っていった。（経年改善の内容は以下の通り）

- ① 勤務校の特別支援教育部会（担当者ら）と連携。
- ② 招く学校を増やし、個別で最適な相談が可能とな

る相談ブースの充実。

- ③ 案内チラシは本学区及び近隣市町等に拡大する。
- ④ 対象を保護者だけでなく、放課後デイサービス等の子どもの教育支援に係わる方々にも拡げる。
- ⑤ 対象を中学校三年生のだけでなく、中・長期的視点を持ち、小学校の保護者に積極的に働きかける。
- ⑥ 学習の場としての意味合いを一層大切にし、特別支援教育に関する最新の進路情報を提供する、「特別支援教育のニーズのある生徒の進学について～進路学習交流会～」として開催する。
- ⑦ 高校の先生方による全体説明と個人ブースでの相談会の形式にする。

(2) 参加者の拡がり・情報を求めるニーズの多さ

保護者同士のネットワークを通じ、参加者は瀬戸内市だけでなく、岡山市・備前市・和気郡・赤磐市・総社市など多くの地域へと拡がった。さ



2019年の様子

らに年を追う毎に増え、2018年は60名、2019年は92名の参加となった。

(3) 2020年4月 コロナ禍の影響の中で

2020年、私は赤磐市への転勤となったが、学習会の継続開催に向けての準備は進めていた。しかし、残念ながら、新型コロナウイルスの拡大の中で、2020年度の開催は中止せざるを得なかった。

3 新たなつながりとひろがりの中で

(1) 2021年4月「学習会はないのか？」に答えて

2021年（令和3年）4月、これまで、学習会の開催時にはいつも応援していただいていた赤磐市在住のメンバーの一人から電話が入った。「今年度は学習会はないのか？と、子どもをもつお母さんや、子どもの支援に携わっている多くの人から要望を聞いている。赤磐市で子どもたちの療育や支援をしている人たちと連携して、開催してはどうか。」という内容だった。学習会を毎年開催していたことが近隣市町にも浸透し、必要とされている方が多くおられることを感じた。また、「子どもの進路実現の活動に取り組む方々と連携することで学習会は新たな拡がりを生み出すのではないか。」とも考えた。開催に向けて話をしたのは、赤磐市障害者自立支援協議会そだつ部会やNPO法人岡山県自閉症児を育てる会など、保護者を中心にした様々な組織の方々だった。赤磐市障害者自立支援協議

会副会長からは、「学習会の開催を待ち望む声が多くあること。協働して開催をしたい。赤磐市の特別支援教育の充実を進めていきたい」ことなどを伺った。これまで学習会を開催してきた前任校を中心とするメンバーでの会議でも、2021年度の開催に向けて検討を進めつつ、赤磐市の自立支援協議会らの〈こえ〉を受けて、協議を重ねた。赤磐市は東備地域の中央に位置し、近隣の他市郡とのつながりも深い地域であるので、このことを活かして、県北の高校のご協力もいただき、これまで取り組んできた学習会を拡大し、赤磐市で開催することを決めた。そのために、有志の教職員や保護者、子どもの支援に携わる様々な組織の方々で『あかいわ子どもの進路保障実行委員会』（以下、実行委員会）を組織化した。そして、これまでの活動を整理し、目的を〔①特別支援教育のニーズのある生徒の進路・進学についての情報を教職員・保護者自身が収集し、子どもの進路実現への見通しがもてる会にする。②参加者同士が情報交流し、連携を深める機会として位置付け、それを支援する学校・多機関との関係をさらにによりよくする機会とする。③高等学校や関係諸機関との連携・協力をより強め、特別支援教育のニーズのある生徒の進路保障、切れ目のないスムーズな進学並びに高校の特別支援教育の充実の一助とする。〕こととした。

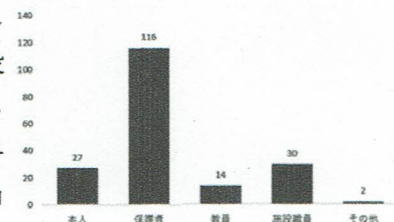
さらに、学習会が中・長期的な展望をもちながら、持続的に開催していけるように、赤磐市子ども・障害者相談支援センター（りんくステーション）や・赤磐市社会福祉課とも協働体制を構築して開催することとなった。

そして、三者の共催により、学習会は、さらに拡がりが見られ、開催の趣旨に深く理解をいただき、現在は、岡山県教育庁特別支援教育課をはじめ、多くの行政機関からも後援をいただいている。

(2) 共催の大切さ〈大きな意義〉

三者（赤磐市、実行委員会、自立支援協議会）での共催は、それぞれの強みを発揮することで大きな意義があった。

赤磐市との共催は、社会福祉課が中心となり、福祉の専門性を生かし、渉外全般にあたってもらった。参加者の電子メールでの事前申

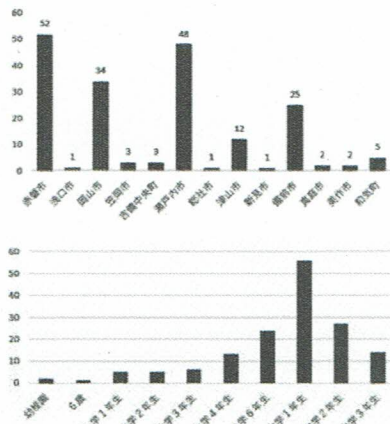


し込み者に対する丁寧な集約は、コロナ感染症の状況変化による開催中止時の対応や動画配信の連絡時にも大いに役立ち、また、視聴者アンケートのまとめは「持続可能な取組」

に向けて、重要かつ客観的データを蓄積することができた。(参考:グラフ・上から、事前の参加申込者の「立場(職種)」「地域別」「子どもの年齢別」統計)

実行委員会には、東備地域から子どもの教育・支援現場で活躍されているメンバー(21名)が集まった。特に、招く高校の選定は、大変難しい作業だったが、メンバーの中に中学校の教職員が多数在籍しており、これまでの進路指導の体験や高校進学した生徒らの貴重な情報をもとに決めることができた。さらに学校現場の経験を活かし、会場設営や進行係を担うこととした。

赤磐市障害者自立支援協議会そだつ部会との共催により、部会の強力な人的ネットワークを活用し、市内の教育・福祉・子育て支援関連機関のみならず、医療機関等へも案内チラシを届けることができた。[下:案内チラシ]



さらに、三者の共催によって、後援団体も増え、そのことにより赤磐市とその周辺市郡だけでなく、岡山市など広範囲に情報発信することができた。その結果、事前申込みは200名を越えた。

(3) 2021年夏 コロナ禍で動画配信開催へ変更

2021年8月、新型コロナウイルス感染症の社会的拡大状況を受け、会は動画配信での開催としたが、多くの方が視聴された。そして参加者(視聴者アンケート)の貴重な「こえ」は、私たち実行委員らの励みにもなった。「学習会のさらなる充実に向けてがんばっていかねれば」と身が引き締まる思いがしている。以下、アンケートの一部を掲載する。

① [学習会は参考になりましたか?]

○県内の複数の高校のご担当者のお話を伺える機会は初めてでしたので、とても良かったです。「地域の見守り」をしている中で、直接的な支援はできないかもしれないが、このような情報を知った上で日々の声かけが出来ればと思いました。また、多くの方々が求めていることを知ることができました。我が子の時にはなかったので、悩むことが多かったのだ。

○いろんな高校の取り組みや学校の特色を見られる機会はなかなかないので、とてもありがたいです。学校からの情報だけでは、どの学校がどういう支援を、してくれるのかわからなかったのだためになりました。とても工夫されてわかりやすかったです。

② [進路(進学)について心配なこと不安なことは?]

○高校進学という入口の紹介がどんどん進んでいくことを切に望みます。それと同時に出口の選択がどんなものがあるのかという部分も広がりが出るといいなと思います。今回中学生以下のご家庭への案内がしっかりされていましたが、これだけ高校が頑張って支援を進めてくれていることを企業や事業所など社会が知る場にもなれば、出口選択がもっと充実してくるのかなと感じました。

○個別な配慮がどこまでしてもらえるのかなどは気になるのかなと思います。高校は、次のステージに繋がる大事な時期だと思うので、本人が自分に合った環境で、自分を理解しようとしてくれている大人がいて、信頼関係を築きながらその大事な時期を過ごして欲しいと思います。発達障害を理解する学校の先生が増えてくれるだけではなく、発達障害のある子どもたちへの関わり方、教え方を理解してくれている先生が増えて欲しいと思うので、高校の先生方がどのような研修を受けられているのかなどは知ってみたいなと思いました。今後もこの会が続いてほしいと思いますし、参加して下さる学校が増えていくといいなと思いました。

③ [視聴された感想や意見]

○実行委員長のお話に胸が熱くなりました。あきらめないで声をあげて、仲間を増やして少しずつでも進んでいきたいと思いました。今後も継続して開催されたら良いと思います。

○どちらの学校も、そして教育庁、事業所、協議会も、私たちの子どもの進路について真剣に考えてくださっていることが伝わってきました。配信の長所として、繰り返し視聴できることや、途中一時停止できることはいいなと思いました。ただ、実行委員長さんの言われるように参加者同士の交流会が開かれないうちは残念に思いました。

○私はお知り合いからこの学習会を教えてもらったので、療育機関や放課後デイサービス等に案内を出すより参加が増えると思う。(私も知り合いにこの学習会を伝えたら、「こんなのあるんだ! 助かる! 嬉しい! 行きたい!」と皆言っていた。)

[参加して下さった高校からの感想・意見]

・コロナ禍、もしかすると中止、延期になるかもしれないという心配があった中で、このように企画、運営して下さった実行委員の皆さま、誠にありがとうございました。また、急遽オンライン配信での開催になったことで準備された多くの学校、団体の皆さま

令和3年7月27日

「特別支援教育のニーズのある子どもの進路について」 ～情報交流学習会のご案内～

特別支援教育のニーズのある子どもの進路に関して、保護者(本人)、教職員のための進路・進学についての情報交流学習会を行います。ご関心のある方は申込みの上、ご参加をお願いします。

記

1 日時 令和3年8月22日(日) 10:30～16:30(参加者は会場からの途中入退場、再入場可)

2 内容 中学校卒業後の進路について、高等学校・関係機関をお招きして、特別支援教育の実践についての話や、進路に関する情報等をお聞かせします。

○【全体会】10:30～開会行事 ○あいさつ(赤磐市・実行委員会「進路実現に向けて」)

10:45～11:00 精華学園高等学校 岡山校
11:00～11:15 岡山県教育庁 特別支援教育課
11:15～11:30 第一学院高等学校 岡山キャンパス
11:30～11:45 岡山実業高等学校
11:45～12:00 備前市立片上高等学校
12:00～12:15 岡山県立大学附属高等学校
中昼食・休憩・授乳

13:00～13:15 岡山県立東備支援学校 高等部
13:15～13:30 就労移行支援事業所 オカヤマエール
13:30～13:45 希望高等学校 岡山校
13:45～14:00 赤磐市障害者自立支援協議会
14:00～14:15 高梁市立高等学校 岡山西口学習センター
(休憩・授乳 10分)

14:25～14:40 岡山県立邑久高等学校
14:40～14:55 岡山県立誠心支援学校 高等部
14:55～15:10 クラレ記念国際高等学校
15:10～15:25 岡山県立岡山御津高等学校
(休憩・授乳 15分)

15:40～15:55 岡山県立岡山瀬戸高等支援学校
15:55～16:10 岡山県立北部高等技術専門学校 実作校
16:10～16:20 閉会行事(岡山県相談支援専門員協会理事より「将来の進路のために」)

○【個別相談会】※参加高校、機関、親の会や卒業生保護者等、個別の相談に応じてくれます。
10:30～16:20 全体会と同様進行です。 (全ての学校ではありません)

3 参加対象 関心のある方、小・中学校の保護者(本人可)、教職員、教育関係機関の方 などでも

4 会 場 赤磐市立中央公民館(赤磐市下市 337) 駐車場:中央公民館駐車場・高岡中学校駐車場

5 主催(共催) あかいわどりの進路保障実行委員会 赤磐市 赤磐市障害者自立支援協議会そだつ部会

6 後 援 赤磐市教育委員会・瀬戸内市・備前市・和気町・瀬戸内市教育委員会・備前市教育委員会・和気町教育委員会
NPO法人岡山県自立支援センター・岡山県教職員組合・瀬戸内市地域自立支援協議会・東備地域自立支援協議会

7 参加申込 8月13日(金)までに申込みをお願いします。(必着)
※所属は赤磐市障害者自立支援協議会・HPにもあります。

8 注 意 コロナ感染症対策(体調管理、マスク・手洗い)をお願いします。使用施設のガイドラインに準じて開催します。会場が埋ちる場合は、入場人数を制限することがあります。また、連絡先をいただく場合がある為、申込みの上、ご参加ください。

※問合せ:実行委員会事務局TEL() - 久次(赤磐市立吉井中学校)

9 参加申込書(裏面) ※各席

のやる気や底力は素晴らしいと思います。自己満足になってはならないですが、視聴された方の参考になったのであれば、とても良い形だったと思います。

・学びたい、知りたい、不安を少しでも解消したいという保護者のニーズがあるため続けていってほしい。また、学校側も他校の取組みを知ってもらえる機会になるためぜひとも参加したい。(実行委員会まとめ)

4 2022年(令和4年度)夏〈いまから ここから〉

実行委員会では、令和4年度の学習会の開催に向けて、話し合いを進めてきた。コロナ禍の対応として、会場開催は断念し、昨年度に引き続きオンライン開催としたが、昨年度のデータとアンケートを生かし、次の改善を図った。

○多くの高校と様々な組織に参加の声をかけた。会場開催ではどうしても時間の制約があり、招聘できる数に限界があったが、動画配信のメリットを生かし、ご協力していただく高校を増やした。さらに、長期的な進路の見通しが持てるよう参考となる高校卒業後の組織や機関、相談や支援組織の情報提供を加えた。(全25校・所)

○前述のデータにあるように、進路情報を必要としているのは、受験等を迎える中学校三年生だけではなく、幅広い学齢層だった。中学校卒業後の進路への心配や不安、進路情報の不足感は、子どもが小さい頃からもたれている。ある中学校現場からは「進路は中学校三年生になってから考えていけばよい」「この案内チラシも三年生だけに配ればよいのではないか」という事も、残念ながら聞こえてきた。そんな〈こえ〉も合わせて、今年度は案内チラシ作成を早め、小・中学校には、「会の主旨」と共に、夏季休業前に配布することはもちろんのこと、後援団体や親の会のネットワークを強化し、インターネット等も積極的に活用し、案内チラシが一人でも多くの必要とされている方に届くよう働きかけた。

○毎回、実行委員会では、様々な議題(話題)が挙がるが、「『特別支援～学習会』の名称が長すぎる」、「多くの人に親しみやすく、より知っていただく名称にしようよ」と、『春15(はるいちご)の会』とした。「いちごの花言葉は「先見の明」「尊重と愛情」、そして花びらの枚数は5～7枚と様々。一人ひとり違っていいんだよ、それぞれの美しさがあるんだよと教えてくれる。15の春、それぞれが自分らしい選択をして歩み出せますように。」そのような願いを込めて保護者の方たちが考案してくれた。



今年度も学習会を必要とする多くの方々が、育児や家事・仕事の合間等に視聴され、進路に関する最新情報を入手していただき、お子さんと学校で一緒に語り合って、オープンスクールや学校見学、相談等につなげてほしいと願っている。

5 終わりに〈そしてこれから 考えること〉

実行委員会では、「次年度は、必ず顔の見える会場開催をカタチにして、ぜひ参加者同士の交流・連携を深める取組にしたいね」と話している。また、「私たちの取組(学習会)が、第3次岡山県特別支援教育推進プランの三つの柱〈一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実〉〈特別支援教育に関する全ての教職員の専門性の向上〉〈切れ目のない支援の引継ぎと関係機関との連携〉の一助となればよいなあ」との意識も広がりつつある。しかし、「自分の子の発達特性・発達障がいにも重ね」た、「知りたい進路情報」がなかなか手に入っていない状況、子どもの進路実現にむけての不安や心配が多くあることに対しての、「根本的な課題はどこにあり」、「何をどのようにしていくことが最善の解決なのか?」という課題はいつも話題となる。

1994年にユネスコで採択されたサラマンカ宣言では、「インクルージョン(包括的な教育)」「万人のための学校」の必要性を表明している。そこには、個人差もしくは個別の困難さがあるろうと、すべての子どもたちを含むことを可能にするよう教育システムを改善すること、通常の学校内にすべての子どもたちを受け容れること等が謳われ、すべての子どもは学ぶことができ、そして教育の恩恵を享受することが保障されなければならないとある。『障害者差別解消法』は、その子に応じた必要な支援や配慮ができるように、子どもの「困り感」に寄り添いながら、その子の可能性を阻害しない関わり方をしていくことが大切にされている。

この学習会は、微力ながら、「障害」がある子どもたちが地域の学校の中で周りとながら生きていくことができるように、「障害」に基づいて子どもを分離・排除しないインクルーシブ社会への転換を推進していくことを目指している。そのため、これからも多くの〈こえ〉に耳を傾け、社会に働きかけ、さらに様々な方々との〈連携・協働〉の力により、春15の会は、カタチを変えながら、これからも進んでいく。